

令和3年度 第1回魚沼市総合教育会議 議事録			
1 日時	令和3年9月7日(火) 15:00~16:55		
2 会場	魚沼市役所 本庁舎 301会議室		
3 出席者 (敬称略)	魚沼市総合教育会議		
	役職	氏名	出欠
	市長	内田 幹夫	○
	教育長	樋口 健一	○
	教育長職務代理者	星 麻衣	○
	教育委員	八木 由美子	○
	〃	浅井 誠哉	○
	〃	桑原 哲哉	○
	魚沼市 事務局長 吉澤国明 学校教育課長 森山丈順 生涯学習課長 斎藤勝浩 子ども課長 小林 淳 統括指導主事 新澤美和子 管理指導主事 島田昌幸 管理指導主事 角谷文昭 学校教育課副参事 佐藤彰弘 学校教育課主任 渡邊眞絵 事務局 秘書広報課長 山田庸子 広報広聴係長 広瀬 大		
4 議事内容	市長あいさつ 議事1「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立について」 議事2 その他		
5 配布資料	日程及び関係資料		

## 6 議事録

### 市長あいさつ

(内田市長) 日頃から教育行政にご尽力いただき感謝する。8月はオリンピック・パラリンピックでは、新潟県出身の山田美幸さんが、パラリンピックでメダルを取り感動した。これからも頑張ってもらいたい。また、高校野球でも、コロナ禍でも対策をとった中で頑張っていた。県大会や本大会でコロナの影響で辞退した学校もあり、また大雨続きでのコールドゲームもあり、高校生の心が折れるのではないかと心配していたが、SNSで、僕たちは頑張っていくというメッセージを発信されたことで、国民やこの地域の指導員からも感動したという話を聞いており、感動が多かった1ヶ月だった。

現在、コロナ禍で、21都道府県が緊急事態宣言地域となり、12県がまん延防止対象地域となった。新潟県も独自で特別警報を発令し、16日まで飲食店の時短要請等が行われ、市

としても経済対策をきちんとしていかなければならないと感じている。

また、当市の子どもは、尾瀬学習や運動会・体育祭等の活動を制限されているが、形を変えても実施されていることは良いことだと感じている。ワクチン接種は、65歳以上は、95%を超えており、64歳未満も80%に達しようとしている。12～15歳は対象者1,114名のうち、395人から接種希望があった。今後、若い方からの接種率をあげていければと思っている。

今日は「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立について」をテーマとし、難しい課題ではあるが、忌憚のないご意見をいただき進めていければと思う。その他、日頃思っていることがあったら、意見交換をお願いしたい。

## **議事（１）生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立について**

（内田市長）教育委員会事務局担当から説明をお願いする。

（角谷管理指導主事）中学校の部活動の改革について、意義ある活動としてこれまで学校教育の中で実施されていた。集団活動や人間形成や多くの場でも活躍できる場であることは周知のとおりである。しかし、部活は教師の献身的な勤務のもと、休日を含め長時間勤務や指導経験のない教師の過大な負担、生徒にとっても望ましい指導を受けられない等の様々な問題を抱えている。国会の審議において、部活動を学校単位から地域単位の取り組みとする方針とされた。部活動は、教師が必ずしも担う必要のない業務であることを踏まえ、休日に教師が部活動に携わる必要のない環境を構築すること、部活動指導を希望する教師は引き続き行うことができる仕組みを構築すること、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を構築することが、改革の方向性として示されている。具体的には、休日部活動の段階的・地域への移行で、スケジュールに示されているとおりであり、令和5年度には地域部活動として実施していくシステムを作る必要がある。

魚沼市の現状で、部活動の種類においては、生徒数は減少傾向にあり部活動を継続することが難しい集団スポーツもある。4月には保護者向けに案内を出した。魚沼市の昨年度の市立学校の時間外勤務の状況を示した資料を見ると、8月以外は全て平均を上回っている。小・中学校を比較すると、中学校において45時間以上の時間外勤務職員が非常に多い。また、市内で部活動検討委員会を4回開催し、生徒にとっても教師にとっても、魅力ある部活動の議論を重ねた。様々な意見があったが、一番重要だと感じたのは、運営する主体となる団体が定められないと前に進めないということである。

当面、部活動指導員を拡充して、段階的に増員していく予定である。3年度は15人の枠があるが、現在11人が登録し、北中は冬季から1人増員予定である。来年以降も増員予定である。外部指導員と部活動指導員の違いは、単独で引率できる点で、必ずしも教職員が付き添いしなくても良いこととなる。会計年度任用職員の立場となり、時間数も限られているが、それに基づき賃金・報酬が発生する。

当面の柱としては、合同部活動とスポーツ少年団との連携である。平日は学校で、土日は地域のスポーツ少年団として活動する。競技や生徒数によって近隣校と合同部活動とする。既に学校の枠を超えて取り組んでいるところもある。また、授業の工夫した時間割などにより、活動時間を確保し、その分、夏季・冬季の休業を短縮し授業を行っているところ

るもある。

今後の取り組みとして、スポーツ少年団（以下「スポ少」という。）とは指導者の推薦、NPO団体とは研修体制の構築、学校も教職員への理解と、改革の方針をできるところから実行することとなっている。

教育委員会は、ガイドラインにより、一日の活動時間を示したり、部活動指導員を対象とした研修会を実施したりして、各団体との連携調整を行う必要がある。

課題として、教職員の「兼職兼業許可」にかかる制度設計もあげられる。休日部活動に関わる場合は、教育委員会に許可願いを提出し許可証を貰い、休日の部活動に取り組むシステムを作る必要がある。働き方改革を目的としているので、休日部活動を含め、1ヶ月100時間を超える方や、複数月平均が80時間を超える場合は許可できない、と文部科学省から示されている。認める場合も課題がある。

また、保護者には、経費の負担がかかる場合がある。参加しやすい状況を作ることも課題となってくる。

魚沼市は、他市より部活動に多く携わって貰っているが、地域部活動に移行する場合、指導者をさらに育成していく必要がある。今後の方向性や魅力ある部活動は、地域の現状に合わせ、作り上げていく必要がある。国の動向に注視し、学校・地域が連携し情報共有し理解を深め、指導者の確保等を進めシステム構築、予算措置につなげることが必要である。生涯に渡り活動する意義を学び、地域で活動する喜びが人づくりにつながっていく。休日のみの部活動だけでなく、段階的に平日にもつながっていくと考えている。単にスポーツを楽しむことだけでなく、生涯学習の観点でも指導したり仲間を作ったり、市民が活動していける場となっていければと考えている。なお、スポーツだけではなく文化的な部活についても同様に、地域部活動への移行予定となっている。

(内田市長) 今の説明を聞き、委員の皆さんからご意見をお願いしたい。

(浅井委員) 自分は守門出身なので、北中の立ち上げのときに委員をさせていただき、部活についても、人数の都合でどれを残すかを検討し、スポーツの個人種目と吹奏楽を残す形となった。スポーツの団体種目はできなかったこともあり、学校間の合同部活が進まないかなと考えていた。しかし一緒に行うとなると、バスの手配等も考えなければならない。

(桑原委員) 中学生は学習も大事だが、部活動も大事である。行政の場で部活動の話をする機会を持てることは良いことだと思う。部活の魅力というと、部活を頑張り強くなって試合に出たいという向上心が生まれることも一つである。課題は、小学校でやっていた種目が中学校で無い、先生が指導できないことなどが上げられ、地域で指導する方がいたら、長期間見てもらえるので良いと思う。ただ、学校側からの指導員への教育的な指導も必要だと思う。

(八木委員) スポーツの部活に比較し、文化部の選択肢が少ないと感じる。他の学校との関わりでも良いと思う。スポーツが苦手でも放課後の行き場として、文化部がもう少し元気になって貰えたらと思っている。

(星委員) 平日は学校の先生が見て、休日は地域の方が指導となると、どこが主体となるかが重要だと思う。子どもとしては、指導者が2人でそれぞれ言うことが違うと迷う。それで部活がうまく回るのかが気になる。連携することやどちらかが主となることをきちんと

決めることが必要だと思う。また、学校の働き方改革や兼職兼業許可の決まりに則り行うことになると思うが、終業時間は変わらないはずなので、部活動に力を入れたい先生が本業の時間を削り部活動を優先に考えたくならないか懸念する。部活の種類が少なくなると、小学校でスポ少を頑張っていたが、部活がないことにより学区変更を検討する可能性も出てくる。時代が変わり、部活の方法もシフトチェンジしていかなければならない時期にしていると感じる。

(樋口教育長) 今までの部活動の位置づけは、教育課程外であり、時間割には組み込まれていない。しかし、当然価値ある活動である。目標に向かい、志を一つにして目標に向かう。それまで、みんながそのように認識してたので、様々な部活動を用意し、部活に励んでいた。そのため、資料にあるように「必ずしも教師が担う必要のない」と言われると、今まで、部活動を熱心に行っていた教師にとっては、言葉に詰まる。これまで、学校生活で子どもを育てるのにとっても重要だった。学校生活とともに行うことで、より効果的な指導が出来ていた大事な教育活動の一つである。小学校も昔は部活を行っていた。平成16年に土日が休日となった際に切り離し、スポ少に任せた。その際に、これからは授業で勝負だと言われた。中学校も、部活を完全に離す転換、意識改革が必要だと考える。

(内田市長) 先生方のスポーツや吹奏楽で、全国的に熱心に練習をしているような「先生方の想い」は考えなくて良いのか。また、子どもたちの目線でも、平日と休日の指導者が異なると、大会でもどちらを向いてよいのか分からなくなる。自分も野球は25年、スキーは40年やっているが、大人が言い過ぎると子どもはどうしてよいかわからなくなり、本来、楽しいはずの部活も楽しくなくなる。なので、これまでも、親は一枚岩で応援しましょうと言いつけてきた。スポーツを通じて様々なことを覚えてきた時代の自分たちからすると、急に部活を放せと言われても難しいのではないかと感じる。魚沼市で、平日は難しいが、送迎などの問題をクリアし、野球は1チーム・オール魚沼、とかのやり方とするなど。中越の大会などで、学校の先生が監督でないとダメという大会もあるため中途半端で見切り発車もできないが、合同チームで県大会で成果をあげたい話も聞いているので、子どもたちの目線で継続できる仕組みができればよいと思っている。指導者もまだ足りていない。年々増やすにはどうやったらいいのか。課題がたくさん見えてくる。

まず、監督が二人になることについてはどうか。

(角谷管理指導主事) 指導者の中でミーティングをして、役割分担をはっきりさせることが大事だと思う。土日を地域に移行するので、指導経験にもよるがうまくマッチングさせて重なることのないよう役割分担をうまくしていく。同じ方向を向けるように確認をしていく。

(内田市長) 先生の思いはどうか。

(角谷管理指導主事) 部活動に価値や喜びを深く刻んでいる教員はたくさんいる。しかし、同じ学校には5年以上はられない県の指導方針がある。やりたい教員ができるシステムは必要だが、ライフステージにより出産や子育て、介護そういった様々な都合で、できない場合もあるので、意思確認も必要となってくる。

(内田市長) 主体の団体ができたときに、メンバーに先生は入れるのか。

(角谷管理指導主事) 兼職許可申請により可能だが、勤務時間の総数の上限がある。中学校の場合、平均40時間を超えている場合、結構な場合部活動に関わっている。毎日夕方6時

までは部活というケースが多い。また、休日に練習試合があればもっと重なっていくが、休日が無くなることを考えれば、休日の地域部活動への参加は可能の場合もありうる。現在 100 時間を超えている方もいるので、自分で働き方改革を進める必要がある。

(星委員) 今の話だと、管理職から意思確認するということだが、例えば断る場合も可能か。

(角谷管理指導主事) 地域が協力していくシステムなので、断る選択も可能である。

(星委員) 年度当初には、先生の紹介の中で部活所属が記載されているが、それも無い人も出てくると考えてよいか。

(角谷管理指導主事) その通り。実は、学校の中でも複数で部活を持つこととしているが、部活の数が多すぎて、逆に、一人の顧問が複数の部活の副顧問をしている場合もある。そして毎年 4 月に代わってしまう。4 月になってから部活の顧問がいない、とスポ少等に伝えられることも仕方ないことだが、そうなったとしても地域があるから大丈夫という支えが必要。学校が主体だったものが、地域が主体となる発想の転換が必要である。

生徒も、3 月まではこの先生だったが、4 月からは誰が来るんだろうという不安があったが、今後は、地域の部活動があるので体制が大きく変わらない安心感の中で、新しい先生が専門家であれば、さらに技術や技能を伸ばしていける可能性が出てくると思われる。

(樋口教育長) 教師の思いとしては、自分はこれまで野球をやっていたので、今後も教えたいた熱い思いを持った職員もいるが、教職員の異動は、部活では異動されず教科で異動される。剣道部があるから剣道の指導できる教師が来ることはまずない。むしろ、部活同のマッチングは難しい。学校としての部活運営は無くし、平日も週末も地域部活で運営していく。たまたま熱い先生がいればそこに入る形で兼業でもよいと思う。教員は自分が住んでいる地域で熱血でやる。仕事で発揮する視点から地域で発揮する発想にすれば、時間の制限はなくなる。

(内田市長) 地域というのは、居住地か。

(樋口教育長) 住んでいる地域である。

(内田市長) 平日も休日もそうだが、指導員を増やす中で、今は思いがある指導者がたくさんいるが、平日 2 時間と休日だけで、会計年度任用職員の立場で可能なのかが心配である。

(角谷管理指導主事) 地域部活動の指導者として、会計年度任用職員の枠は外してもよい。そのシステムをどう作るか。現在は、学校部活動に関わっているので、会計年度任用職員の立場で指導している。

(樋口教育長) 今の部活動指導員は、学校の部活を手伝う方を配置している。

(星委員) 今後は、主体となっただけの方を地域部活動指導員となるか。

(角谷管理指導主事) 都合のよい方は中々いないものだが、自分の教え子にも地域のスポーツ指導をしたいという子がたくさんいた。やってみたい人や携わりたい人もこれまで機会に恵まれていなかったが、システムを作る中でやりたい方に示すことが必要と考えている。仕事と平行することは難しいので、複数指導者が一緒にやっていくことが必要だと思う。

(星委員) ボランティアとなるのか。

(角谷管理指導主事) ボランティアなのか、報酬が発生するのか。またその金額についても、市町村により異なる。

(内田市長) 今は、スポ少等だと部費等もあるが、遠征・道具に使っていて、おそらく人件費

は、ほぼボランティアだと思われる。地域部活となると相当大変と思われる。

(角谷管理指導主事) 時給制にするのか、ボランティアとするのか。ボランティアとしても移動には経費がかかるので、最低限の保証は必要となる。年間いくらかの決め方もある。

(樋口教育長) 先日も湯之谷小学校グラウンドで、4~5人の指導者がいた。スポ少を組んでいる大人が何人かいた。地域部活も、現実的にはスポ少かと思う。土日は、中学生も入り練習する。平日は、何人かで、月~金まで分担して仕事との調整ができれば運営できる。それについては報酬・謝金もいると想定されるため、保護者から受益者負担の課題が出るが、平日と休日の両立ができれば進んでいけるのかなと思う。中学校体育連盟(以下「中体連」)も進み、今までは学校単位でしか出れなかった部活も今度は地域クラブ単位でも出れ、学校にとらわれない改革が進んでいくものと思う。国の方針により、中体連も改革せざるをえないと思っている。市としてベースにできるところから手を付けていければと思う。剣道も取り組みやすそうだし、野球も複数校を集めてやっているところもあるので、北中の生徒も野球にも参加できることとなる。少子化によって発生する問題と、働き方改革の問題、学校単位だから発生している部分なので、すべて地域主体で学校が関わることや、教育委員会が支援できる部分について考えていきたい。まずは出来るところから考えていけばよいと思う。

(内田市長) 場所についてはどうか。

(樋口教育長) 場所は、学校と思っている。文化部では、文化会館で行っているダンスや演劇もある。

(内田市長) 他の自治体はどうなっているか。

(角谷管理指導主事) 県内のモデル事業として、4地区が実施している。平日部活動も含め、NPO法人が運営しているところもあるし、競技を絞り、地域とタグを組んでいるところもある。技術指導にトップアスリートから来て貰っているところもある。

(樋口教育長) 総合型地域スポーツクラブが国主導で立ち上げとなった。種目ごとのスポーツ協会が、一番指導者が沢山いる。企業も魅力的で、長岡市はヨネックスがあるのでバトミントン指導者を呼んでいる。

(内田市長) 今、外部指導者は、前にやっていたスポーツで地元に戻り、指導をしているケースが多い。前から行われてきたスポーツは部活ではなく地域部活となると、昔の感覚からすると、部活では無くなったのかと思う。

(角谷管理指導主事) 今までやってきた部活ではなく地域部活という発想の転換が必要となる。子どもたちも地域も育つ。共にやる喜びも生まれる。今までは、教師が何とか頑張っていたが、広がりがなかった。今度は地域にも広がっていく。今後、子どもたちの活動に信頼と安定を育む必要がある。

(内田市長) 皆さんから最後に一言ずつお願いしたい。

(桑原委員) 色々なスポーツの選択肢が増え、頑張ればよいと思うし、そういう時代に柔軟に対応していくことが必要だと考える。

(星委員) 先生も生徒も選択肢が増える。生徒も、部活だけではなく、自分を磨くための時間に使うこともできるのかと思う。部活に特化せず、自分のための放課後はよいと思う。

(桑原委員) 小・中・高で、一つのスポーツをやることもよいが、シーズンスポーツをやるこ

とも価値観や考え方が変わる意味では柔軟に考えられてよいと思う。今できる協会やスポーツをモデルにして広げていくと、取り掛かりやすいのかと思う。

(八木委員) 部活だけでなく、放課後の過ごし方の多様性が生まれる。子どもの数も少なくなってきたので、なおさら自分たちで考えて、放課後をどのように過ごすのかを考える曲がり角にしていると思った。

(内田市長) 先生方も、部活ではなく学習指導のような関わり方となる。

(樋口教育長) コミュニティスクールや生涯学習の時代に、こういう課題が出てきているときに、週末だけ地域となると歪みが出てくるので、いっそ視点を変えていかないと対応できない。令和5年度からという中で、現実的に何からできるか考えていかなければならない。どんな種目でどんな形が可能なのか、例えば今、柔道は小出中しかない。それを一緒にして部活として移行してみるとか。学校として出来そうな部活は地域主導にしてみる等。部活動検討委員会を通して詰めていければと思うので、ご指導いただきたい。

(内田市長) 今日は結論は出ないが、たたき台は必要となる。指導者となる方や色々な方から丁寧に話を聞いた中で、子どもたちのことも考えて進めていただきたい。少し、頭を整理しないとわからない部分もある。今後も継続して議論をお願いしたい。

## 議事(2) その他

(内田市長) 過去の会議を振り返ると、英語教育のことについて、話が出ていたがどうか。

A L Tも市内に6人いる。

(星委員) 例えば、放課後に、英語の得意な方から英検指導や英会話の指導をしてもらうことも可能かと感じた。

(内田市長) コミュニティスクールもこのことに繋がってくる。地域が学校に入って、みんな子どもたちを育てるという。

(星委員) 英検の半額補助を、市の予算につけてもらったので、ぜひ受験者が増えるとよいと思っている。

(内田市長) 本年度予算は168万円程あるが、現在受験者は50人で10万円程度の支出である。

(浅井委員) 湯之谷小学校で英会話クラブの話はなかったか。

(樋口教育長) 小学校のクラブは年間15時間程度の規定になっているので、隔週位で各小学校で活動が入っている。各小学校で、英語クラブを作ろうと取り組みを行っている。

(浅井委員) 全小学校に英語クラブがあるのか。

(吉澤事務局長) 湯之谷小にはある。

(樋口教育長) クラブは選べるので、好きなクラブに入る仕組みである。

(内田市長) 中学生になると、英語を使った職業を選択する子もいる。今、広島での平和集会に5人の子を送っているような事業をしているが、将来、英語を勉強して職業についたり海外に出たりする夢を持たせるような、海外への留学や研修の希望を募ってはどうかという思いもある。グローバルで、田舎から世界へという事業もよいと思う。

(星委員) ぜひやってほしい。

(吉澤事務局長) 昨年度も、海外派遣を検討していたが、コロナの関係で見送った。近い将

来は予算を盛る想定でいる。広島については2年連続で行けていない状況である。

(内田市長) 広島派遣の中学生の作文を広報に出しているがとても良い。治安のよい海外へホームステイに挑戦して、海外で頑張りたい夢を持つ子が増えたらよいと思う。また、市内にホームステイを受け入れている人も沢山いる。1年間、地域の祭りなどにも参加するが、受け入れ家庭は子どもが増えたような感じで対応している。しかし、地域にいるのに知らないケースも多い。また、英語は話さないと忘れるため、国際大学の人との交流を行っている人もいる。交流の情報を持っていれば、外国人から小学校の午後に来て貰うこともできるのではと思う。子どもが外国にいくと度胸がつく。外国の選手と友達になれば世界的に通用する選手になるということがある。1年間でも海外に行けば成長すると思う。

その他、コミュニティスクールについての理解はどうか。

(浅井委員) 今までも地域から学校支援をしてもらっているので、特に変わることはないと思えている。

(内田市長) 協議会というのは、地域の意見を出す会か。

(樋口教育長) コミュニティスクールは、学校運営協議会を設置し合議体になるので、選出される委員は特別職の地方公務員となり、今までにない議決を得て運営されていく。私立学校の理事会みたいな制度が、公の学校に入ることなので、制度的にはかなりの転換となる。経営方針もそこで承認いただかないとスタートできない権限を持っている会議である。地域や保護者の方が参加している協議会で、先ほどの地域部活動に移行というような重大な事案が議決されるような、地域の皆さんの意向が反映されるシステムとなる。今までのボランティアを、コミュニティ協議会や団体等も協力していくことで効果があがるため、地域学校協働本部を立ち上げていきたいと思いますということになっている。一方的な支援ではなく、地域づくりを視野に入れて授業を行うことも可能である。元気で幸せな地域づくりと思っている。そのために今、研修会を実施している。

(内田市長) 例えば、学校田を行ったり、学年によっては、夏野菜等を作ったりしている場合もあるが、田んぼなら、上げ膳・据え膳で植えるときと刈るときだけでなく、水管理等も全部させるなど、全て教えられるのなら、もっと張り切る高齢者の方もいると思う。コミュニティスクールというと、どのように関わればよいのか分かりづらい。

(樋口教育長) 今のようなことを、運営協議会で話をして貰うことが必要である。全ての工程を体験してほしいと、委員から提言してらいたい。

(内田市長) 次に、通学路について。市長と語らん会で、結構多くあがるのが通学路のことである。冬場の雪とクマのことや、バス通学の経路や決め事は見直しがされているかなどの話題が出てくる。

(吉澤事務局長) 小学校は夏は2.5 kmで冬は2 km、中学校で夏が3.5 kmで冬が3 kmと、それぞれ距離を指定し、待合所を基準としている。

また、例えば、障害を持っていて歩けない場合などは臨機応変に対応している。緩和してほしい話も出ているが、現在は変えていない。

(内田市長) 歩道除雪は、小学校しかしない。県では基準20センチ以上の際の除雪とのことである。歩道を歩けと言われても、消パイの水がかかると、びしょ濡れになる。そして、歩く道をバスが追い越していく。県からは、片方の歩道があると言われる。また、バス通学



の距離も、3年や5年に1回程度、見直しできると思うがどうか。

(吉澤事務局長) 他市に比べると、当市では割合と近くから乗せていく実態がある。境目のところの問題は想定されるが、基準は必ず必要である。

(内田市長) 登校については、夏は歩いた方がよいと思っている方も多いが、特に、冬の雪や秋のクマなどの心配の声が出ている。

(星委員) 年々、夏は朝から気温も高くなり、汗だくで登校している子も多い。低学年だとトイレが間に合わない子もいる。また集団登校の際、人数が少ない場合もあるし、いない場合は一人で長い距離を歩くのに不安を感じ、行きたくない子も出てきている。登下校は「学校へ行く気持ち」のひとつとして大事だと思っている。バスに乗れる範囲から数m遠くなり乗れない子もいる。

(内田市長) 都会の子は、バスや電車に乗って頑張っている。

(樋口教育長) スクールガードの方からも見守りを頑張っている。トイレのことも大人なら言える。危険からも守っていただいております。有り難い。

(内田市長) その他に意見はないか。

(八木委員) 市内に不審者情報が多い。行きは見守りがいるが、帰りはバラバラなので危険だと感じる。

(樋口教育長) 異常があった場合は、すぐに学校からメール配信をしている。

(桑原委員) 不審者やクマも危ないが、そういう時に車が学校に集まって危ない部分もある。

(内田市長) 本日は、全ての結論は出ないが、活発な意見交換に感謝したい。

9月議会が終わると、来年度に向けての予算編成の時期となる。市側ももちろんだが、学校・教育委員会側も、様々なことを頭に置いて、予算組みの検討をしてほしいと思うのでよろしくお願ひしたい。

## 閉会